

◇ 長谷川 かおり 君

○議長（小西秀延君） 続きまして、4番、長谷川かおり議員、登壇を願います。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。通告に従いまして、一般質問を行います。

1、人の流れをつくるまちづくりについて。

（1）、民族共生象徴空間ウポポイが開設し5周年を迎えたが、来場者数と町の観光入り込み数について伺います。

（2）、これまでのウポポイ町民利用促進事業の実績について伺います。

（3）、白老町デジタル田園都市国家構想総合戦略の基本目標②「人を引き寄せる資源の活用」の基本施策に「ふるさと納税の維持・拡大による関係人口増」とあるが、具体的な取組と今後の展開について伺います。

（4）、観光のまちとして、来町する聴覚障がい者のために、観光施設に手話通訳派遣を導入する考えについて伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「人の流れをつくるまちづくり」についてのご質問であります。

1項目めの「民族共生象徴空間ウポポイの来場者数と町の観光入り込み数」についてであります。

令和6年度までの直近3か年の推移で、本町の観光入り込み数は6年度232万2,565人、5年度213万2,961人、4年度220万1,935人となっており、このうちウポポイの来場者数は6年度31万6,398人、5年度33万3,097人、4年度36万9,038人となっております。

2項目めの「これまでのウポポイ町民利用促進事業の実績」についてであります。

事業を実施した令和2年度と6年度の実績ですが、6年度の引換対象人数1万4,582人に対し、引換人数3,059人で引換率21.0%、2年度の引換対象人数1万5,699人に対し、引換人数5,315人で引換率33.9%となっております。

3項目めの「ふるさと納税の具体的な取組と今後の展開」についてであります。

令和6年度における具体的な取組としては、寄附ポータルサイト及び返礼品数を増やし、露出度の高い広告の拡大や返礼品事業者向け勉強会の開催など、様々な効果的な施策を展開したことから、納税額約15億2,000万円、寄附件数8万1,393件といずれも過去最高を記録したところであります。

今後においても、返礼品の充実やPRの推進により、本町の魅力を向上させ、さらなる地域経済の活性化と新たな関係人口の創出につなげていく考えであります。

4項目めの「観光のまちとして、来町する聴覚障がい者のために、観光施設に手話通訳派遣を導入する考え」についてであります。

現在、手話通訳者の派遣は、町民を対象に国の施策に基づき、官公庁等における手続や保健・医療・福祉に関することなどに限定され、観光目的に想定されたものではありません。

今後においては、近隣自治体の観光施設の状況を踏まえながら、こういった形で取り組める

か検討していきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。まず、観光入り込み数の増減の関係は先ほどの同僚議員の質問もありましたので、そこは省かせていただきます。

関連しまして、国の観光統計によりますと、インバウンドの来日数は2024年には年間3,687万人を超えて過去最高を記録し、2025年6月には累計2,000万人を突破するなど増加傾向にあると報道されていました。インバウンドは都市部に集中しているそうですが、本町におきまして増加傾向にあるのか、現状を今把握している状況でいいので、お伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 令和6年度のインバウンドの入り込みですが、合計しまして約3万人となっております、前年比160%増となっております。増加した要因としましては、背景に円安があるといったことと、あとは中国の春節時の来訪者、これがいつきに比べて戻りつつあるといったことが大きな要因かなと捉えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） インバウンドの状況は理解いたしました。今後も増える可能性がたくさんあると思いますので、しっかりと各事業所コミュニケーションなどでトラブルとかがないように、コミュニケーションボードなどを活用するとか、そういう事業所からの相談を受けながらしっかりと取り組んでいく、その考えはあるか、そこをお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 観光事業者におきましては、そういったコミュニケーションの取り方、様々な今デジタル機器とかも使いながら取り組んでいるものと思いますが、当然そういった相談に対しましては町並びに観光協会ですっきりと支援してまいりたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。次の2項目に移ります。

ウポポイ町民利用促進事業の実績ですけれども、町民の様々な方からウポポイ開始時のときのように無料パスポートを発行してくれないかという、私はそういう声をたくさん聞いておりました。それで、やっと令和6年から無料パスポートがもらえると私も喜んでいたのですが、残念なことに開設時よりは実績が下がっているというところで、こちらの要因と、あとは令和7年度8月までの実績になるのか、最新の実績とかを比較できましたら、その点をお聞かせください。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 先ほど町長の1答目で令和2年と令和6年の実績についてはご答弁させていただきましたが、今年度の7月から始めておりますので、7月、8月と、この

2 か月の実績につきましては702件となっております、昨年の同期間の引換件数は924件でしたので、昨年よりも222件減っている状況となっております。

○議長（小西秀延君） 4 番、長谷川かおり議員。

〔4 番 長谷川かおり君登壇〕

○4 番（長谷川かおり君） 行ったことがないという方に私はお話を聞きました。その方はつえを使わないと歩けないので、ちょっと体に不安があって行けないのだって、そういう方もおります。発行数に対しての減少というのはそういうことも一因もあるかなとは思っておりますけれども、まちとして減少、これだけ今下がっているという、その要因をどのように捉えているのかお聞かせください。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 減少した原因ということですが、昨年度においても引換期間のぎりぎりになってから急激に伸びてといったようなことがございましたが、今年においても同様の経過となっているところでございます。町職員もそうなのですが、実は昨年、最後に2月に引換えをされた方でも、今更新をしても終わりは来年度まで、全部お尻は変わらないのだよというようなことがなかなか周知できていないといったところが伸び悩んでいる原因かなといったところもございます。対応策としましては、ウポポイで連携したイベント、先日しらおいスカイランタンフェスティバルもやらせていただきましたが、町内外から予想以上のお客さんに来ていただき、有料だったのですが、それにもかかわらず多くの方に来ていただいたり、これからとしましては12月2日に元気まち健康キャラバンのイベントも開催させてもらうといったところで、こういった場面でもしっかりとPRさせていただきたいなと思っております。

○議長（小西秀延君） 4 番、長谷川かおり議員。

〔4 番 長谷川かおり君登壇〕

○4 番（長谷川かおり君） その点は理解いたしました。ただ、増やす可能性として、町民、私もパスポートを持っていますけれども、町外のお友達を誘って行こうと言ったら、やっぱりお友達は料金を支払わなければならない。そういうところの、声をかけても一緒に行ってもらえるかなとか、お金がかかるから行かないわとかという方もいるのですけれども、そういう中で町民1人に対して例えば2人まで、お友達とか、親戚とか、知り合いを連れていったら無料だよとか、無料で入場できるよとか、あとは関係人口拡大ということで町外から白老町に通ってくる方々も無料にするなど斬新な提案をウポポイに投げかけてみることは可能でしょうか。その点をお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 我々としましてウポポイの来場者数が増加につながる取組としましてはこれまで同様に積極的に提案していきたいと思っておりますし、長谷川議員からありましたご提案につきましても、ウポポイとの間、ウポポイというか、国との間で様々な会議体を持っておりますので、その機会を捉えて国のほうにはこういった取組ができないかということでお話ししたいなと思っております。国側もやはり年々入場者数が落ちている状況もあって、以前よりもどんなことでも取り組んでいきたいというような姿勢も見受けられますので、

我々としてもどんどん提案していきたいなとは思っております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 長谷川です。無理難題かなとは思いますが、そういう大胆な提案をしていく中で、ではどういうところで歩み寄っていくかということもしっかりと、国との会議体もあるということなので、しっかりと取り組んでいただけたらと思います。

それでは、ふるさと納税の関係人口についてです。白老町のふるさと納税のポータルサイトを見ていきますと、あまり目にしたことのない事業所もあるなと思って見ておりました。私も今回この質問をするのにいろいろといろんなサイトを見て勉強させていただきました。そういう中で、現在ふるさと納税を取り扱っている事業者数と、あと返礼品の数、大分伸びていると思いますけれども、その点をお聞きします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 現在の事業者数と返礼品の数といったところでございます。現在の数字でいきますと、令和6年度の事業者数が63事業者、返礼品数が885商品ということで、これは5年前の令和2年と比較しますと、令和2年の事業者数が26事業者、商品数は126商品ということで物すごい伸びを見せていると。このことがふるさと納税の金額に跳ね返ってきているものと捉えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 今すごく頼もしい結果を聞かせていただきまして、これからもどんどん、どんどんいろんなアイデアを出しながら伸びていくのかなと思います。これはやっぱり事業者の協力がなければ成り立たない事業だと私は捉えております。役場職員と共に実際にどのような取組をしているのか。事業者向けの勉強会も行っているということですが、特に効果が見られた、そういうケースなどがありましたら具体的にお伺いします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 特に効果のあったというところでいくと、やはりまちの職員が専任でといたしますか、一生懸命やっていたのが一番伸びた要因かなと思いますが、勉強会以外に、やっぱりポータルサイトを増やしていくと、取り扱っていただいているポータルサイトを増やしたこと、それと商品数が多くてというところとお得感といいますか、そういったものの見せ方をいろいろ工夫していることが一番大きいのかなと思っております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） お得感の見せ方ということですが、ふるさと納税で電子クーポンを購入し、宿泊や体験、食事ができる仕組みは私も確認させていただきました。そういう仕組みができてきているのだなと。そういう中で、家族構成や年齢層に合ったパックをつくりまして効率よくまちの中を観光できるよう、観光を楽しめるような、そういう新たな商品開発も必要ではないかなと思うのですけれども、そういう点の、商品が伸びているところはやっぱり

食べ物とかが多いのですけれども、そういう体験型、今は何か体験型というのもすごく重視されておりますので、そういうところの商品開発の考えというか見解をお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 白老町の宿泊施設に泊まれて、白老町は旅先納税ということもやっておりますので、そういったことも可能かなと思うのですが、例えば宿泊施設に泊まって旅先納税をしていただいて、その特典としてそういった、例えばホテルにこういう体験がありますよというような取組で増やしていくことは可能かなと思っております。せんだって我々も倶知安町に出張して、倶知安町の観光協会の事務局長、もともと白老町の役場にもいられたのですが、その方といろいろお話をしまして、旅先納税の状況ですとか倶知安町の取組についても勉強させていただきましたので、そういった先進事例を踏まえながら、今後もそういったアイテムといいますか、取組については進めていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） ぜひそういう、私のような年代になりますと、やっぱりエステとか、そういうのに関心がありますし、そういうところで町外に住んでいる友達も白老町のふるさと納税を見てって、そういうところでちょっと購入してみたいな、そういう声かけもできますので、ぜひ開発のほうを進めていただけたらと思います。

町長は、さらなる地域経済の活性化と新たな関係人口の創出につなげていく考えだと答弁されております。昨日も逢縁クリニックのお話が取り上げられましたけれども、逢縁クリニックの医師や看護師は、週3回白老のほうに泊まりがけで訪問診療を行っております。その間はガソリン代とか、昼食代とか、そういうものもしっかりと白老町に落としてくれていますし、札幌市に戻ってからはスタッフの方に白老町の自然のすばらしさ、そして海産物とかおいしい食べ物のことなどを話をしていく中で、スタッフの方からこの休みにウポポイに行きましたとか、あとはナチュの森のほうに家族で行ってきましたという、そういう報告を受けているそうです。やっぱりそういう関係人口の方たちを大事にしていくことも一つの施策の考えかなと思います。

まず、国は二地域居住の促進を通じた広域的な地域活性化のための基盤整備に関する法律を一部改正し、事業に予算を盛り込ませました。北海道の厚沢部町ではモデル事業として保育園留学を行っておりまして、これはお子さんと家族が1週間か2週間、厚沢部町のほうに来て二地域居住を促進していく中で、年間150組の親子が入れ替わり滞在していったそうです。この中で初めて顔を合わせる子供たちと自然の中で思いっきり遊び、また保育士とも関係を築き、子供の成長していく姿に親御さんたちはとても感動しているというところなんです。そういう中で、お子さんとお母さんだけが厚沢部町に住民票を置くという、そういう形で生活して移住、定住に結びつけているという、そういう実績もあるそうです。このように、地域の特性を生かした新たな競争が各自治体で始まろうとしていますけれども、我が町も後れを取らないために秘策を考える必要があるのではないのでしょうか。その見解をお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 厚沢部町の事例を基にご質問いただきましたが、胆振管内では厚真町のほうもそういった計画を持ちながら進めていると把握はしております。本町における関係人口の創出といいますか、二地域居住の創出促進といったところにつきましては、先ほど来ありましたふるさと納税の促進といったものが大きな取組としてありますが、移住、定住の取組についても積極的に行っているところでございます。私の家の近くにもしばらく空き家になっていたところに千葉ナンバーのキャンピングカーが夏場だけ止まっていまして、お聞きすると夏場だけ夫婦で来て道内を巡っているといったような、これも完全な二地域居住になるのかなと思いますが、白老町には温泉地もありますし、別荘地が多くありますので、そういった方々も多くいらっしゃるのではないかなと思います。これからさらに推進するためにといったところで、先ほど委員からご提案のありましたウポポイの例えば特典、1人行けば2人までいいよ、白老町で二地域居住されている方とか学生、勤務されている方、そういった方にも無料パスポートといったようなところも、小さいことかもしれませんが、こういったことも進めることで関係人口というのは増えていくのではないかなと思っておりますので、ご提案のありましたところを参考にしながらになりますけれども、どんなことができるかというのは今後も研究していきたいなとは思っております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） しっかりと小さなことから進めていっていただけたらと思います。

次、来町する聴覚障がい者のために観光施設に手話通訳派遣を導入する考えについてです。町長の答弁にありました手話通訳の派遣は、町民を対象に国の施策に基づき実施され、観光目的ではないということですけれども、こちら町内における手話派遣事業の利用状況と、あと実績について伺います。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 手話事業についてでございます。現在本町で実施している手話事業について、まず1つは手話講座の講師派遣事業、もう一つは手話通訳者の派遣事業となっております。手話講座の講師の派遣につきましては、手話の理解を図るため、町民や小中学校、それから町職員向けの手話の講座を実施しております。実績につきましては、令和5年度で8件、令和6年度で7件となっております。それと、手話通訳者の派遣事業につきましては、町内に住所を有する聴覚障がい者に対して保健、医療、福祉、それから官公庁の手続、それから児童の保育、教育や社会生活など、そういったものを対象に通訳者の派遣を行っているところでございます。実績としましては、令和5年度が27件の時間数で65時間、令和6年度で45回、98時間となっております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。手話通訳派遣のほう、そちらは今実績をお伺いしましたが、こちら当事者、手話通訳を利用しているこの当事者の人数をお聞かせください。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 現在利用されている人数は2名と認識しております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 2名ということです。例えば函館市の聴覚障がいの方が札幌市で就職面接を受けるために手話通訳派遣を利用するという、そういう実績があると聞いておりますけれども、白老町、今は2名ということですが、今後増えて小さなお子様が手話を獲得しながら就職とかということもあると思いますけれども、そういうときの白老町の対応というのは、現状はどのようなになっているのかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 現状でございます。原則町内ということで要綱は定めておりますけれども、胆振管内、特に苫小牧市だとか室蘭市、こういったところの活動支援は日常生活圏として実施をしているところでございます。また、現在要望はございませんが、札幌圏など、そういったところが今後出てきた場合、要望があった場合には適宜対応していきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） その点は理解いたしました。聞こえない人は、聞こえる人々の当たり前の中で暮らし、多くの不便や不安を感じながら生活しています。手話は視覚言語で、日本語とは文法も異なる独立した言語であり、日本手話を幼児期から自然に取得した母語としている聴覚障がいの方の中には日本語を読んで理解することが難しい人もいます。ですから、観光施設で展示されている日本語の説明文だけでは不十分な場合もあることを皆さん知っていただきたいと思います。

町長の答弁のほうで観光目的の手話通訳派遣は近隣自治体の観光施設を踏まえながらも検討していきたいということですが、今の時点で制度設計する場合、どのようなことを課題と捉えているのか、その見解を伺います。

○議長（小西秀延君） 三上企画振興部長。

○企画振興部長（三上裕志君） 観光施設での手話通訳者の派遣といったところでございますが、実際今そういったサービスの提供といいますか、は白老町では行っていないところですが、そういった手話通訳者の派遣制度につきましても、先ほどもありましたが、北海道で行っている制度がございます。ただ、これにつきましては申請してから2週間程度時間がかかるということ、あとはやはり料金がかかるといったところで、個人に対してはかからないといったようなことですが、これは各自治体が負担すると、基本的にはそういうことになっているといったこととお聞きしております。では、何が今我々観光施設を持つものというか、でできるかなといったところでございますと、例えばウポポイでいけば外国人の観光客のためにQRコードがあって、それをスマートフォンで読み込むことによって英語通訳ができるよといったようなシステムがございますので、例えばその手話バージョンというか、そういったものをつくってQRコードを読んでもらってといったことが一番お金もかからないでできることなのかなとは

考えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 今のご答弁で本当に考えてくれているなど。それをまず、例えば白老町の仙台藩白老元陣屋資料館、まちですとするのであれば白老町の仙台藩白老元陣屋資料館で手話の、ここに聴覚障がいの方でも白老町におりますから、そういう方と連携を取りながら、動画の撮影とかは白老町としてやるのであれば可能かなと思います。確かに制度設計というのはなかなか大変かと思いますが、まずすぐできることであれば動画の撮影、手話動画の撮影が事業として組立てをしやすいのかなと思いますけれども、その点の考えをお聞かせください。

○議長（小西秀延君） 富川教育部長。

○教育部長（富川英孝君） 仙台藩白老元陣屋資料館のお話が出ましたので、仙台藩白老元陣屋資料館も基本的には令和元年にウポポイの開設を間近に控えてということで3か国語の音声ガイドについて導入してございます。今の当事者の方にご協力いただいて手話の動画を撮影するかどうかというのはちょっと今我々のほうでどうしたものかなとは思っておりますけれども、仙台藩白老元陣屋資料館については現在今後の整備に向けて整備基本計画というものを作成している途中でございます。そういった中では史跡の整備というふうに併せながらも、ガイドンス広場というようなことも整備できないかというのを今我々考えてございまして、そういった中に例えば手話というのでしょうか、ハンディキャップをお持ちの方に対する対応というものを考えられないかというようなことでは思っております。そういった機会、恐らく町の観光施設、あるいは先ほど企画振興部長からもありましたようにウポポイでの活用というか、そういったものも踏まえながら横断的な検討をしていければいいのかなとは思っておりますが、そういったご意見、今後の参考にさせていただければなと思っております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。前向きな答弁ありがとうございます。ウポポイには帯広市、旭川市、函館市の聾学校の生徒さんも教育旅行に来ております。ですから、仙台藩白老元陣屋資料館のほうでそのような整備が整いましたらしっかりと学校のほうにも周知をして、そしてウポポイを見たら仙台藩白老元陣屋資料館に来てもらえるような、そういうような観光ルートをしっかりと築き上げてくだされば、白老町でそういうことをしているのだから分かりましたら、ほかの北海道外の学校からも聾学校の生徒さんは来てくれます。聴覚障がいの方ってすごいネットワークがありまして、やはり口コミで広がっているということが確認しておりますので、ぜひそういうところを前向きに取り組んでいただきたいと思います。

九州国立博物館は2005年、太宰府市に開設されまして、一般社団法人全国手話通訳問題研究会の福岡支部は開館前から九州国立博物館に働きかけて、開館当初から手話ボランティアを行っているという実績があります。九州国立博物館の公式ホームページも手話通訳動画が作成して取り込まれておりますし、あと特別展の動画には聴覚障がいの方による手話動画を作成した



という、そういう事実もありますので、しっかりと国と連携しながら進めていってもらいたいと思います。

手話通訳の友人が教えてくれたのですけれども、聴覚障がいの方の友人にウポポイを案内したときのエピソードです。ウポポイでは、アイヌ古式舞踊等を伝承している団体を招き、体験交流ホールで週末を中心に踊りなどを披露しております。ちょうど白老民族芸能保存会の皆さんが出演しておりまして、ムックリの演奏の場面では、聞こえる人は解説や音色を聴き、様々な思いをはせることができますけれども、聴覚障がいを抱えた人は音のない世界で何をしているのか分からない状態でつまらなさそうにしていたというところで、そこで彼女はムックリの由来を伝え、今何が行われているかということを通訳したところとても感動してくれたそうです。手話は、言葉を伝えるだけでなく喜怒哀楽を伝えるツールでもありますので、デジタルツールが進んでも手話はなくなることはないと思います。全日本ろうあ連盟の事務局長もコメントされております。白老町にも手話派遣事業を行っている団体や当事者がおりますので、地元人材を活用した手話通訳派遣をウポポイに導入を検討するように、もう先ほどから提案して答弁もありましたけれども、しっかりと働きかけていただきたいと思います。

2011年、障害者基本法において手話は言語であることが明記されましたが、具体的な環境整備のための法律はなく、今年6月18日に手話に関する施策の推進に関する法律が制定され、6月25日から施行されております。この中で手話の普及に向けた施策を国や自治体の責務と明記されました。聴覚障がいの方もウポポイや仙台藩白老元陣屋資料館で楽しむことができるならば、その喜びや感想をSNSで発信され、観光人口が拡大し、来場者に反映されると、私はその可能性があると思います。多文化共生をうたっている白老町ならではの取組だと思いますので、その考えを理事者の見解を伺って、私のこの項目の一般質問を終わります。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 人の流れをつくるまちづくりということで長谷川議員からご質問いただきました。手話通訳の前に、ウポポイの町民利用促進事業のお話がありましたので、その辺についても私のほうからお答えをさせていただければと思います。今年度、令和7年度、町民意識調査ということで町民アンケートを実施させていただきまして、その中の自由意見の中にウポポイへの肯定的な意見、否定的な意見を含めてたくさん町民の皆さんから意見をいただきました。その裏返しとしては、やっぱり町民の皆さんはこのウポポイへの関心というのは高いのだということで改めて感じさせていただきました。その中で、まずウポポイに対する町民の皆さんの意見としてあったのは、1回行けばいい。子供が遊べる施設がない。ウポポイの中に入っている飲食店が重宝しているというような意見がありました。この中に、もちろんアイヌ文化の理解促進ということを前提なのですが、ここに町民の皆さんが足を運ぶ、足を向けるヒントがあるのではないかなということで、早速この町民の意識調査の結果については国のほうに提言しました。ですから、例えば子供が遊べる施設がないかですとか、もっともっと町民の皆さんが足を運べる環境をつくってほしいというようなことで早速提言をさせていただいたところでございます。

それと、パスポートの町外の方への利用ということで議員からお話がありました。議員か

らのご提言もそうだったのですけれども、町内にある施設の方々もウポポイに行きたいということなのですけれども、施設の方々の方が町外の方で、その方がパスポートを持っていないので、入れないということで行きづらいというご意見もありました。この件に関しても何とか、いわゆる町内で働いていらっしゃるということで、この方も何とか認めていただけないかということで、このことについても国のほうに働きかけをさせていただきました。担当部長から話があったように、やはりアイヌ文化の理解促進を前提に、皆さんにたくさん多く来ていただきたいということで、町のほうからもどんどん、どんどんいろんなことを提言してほしいということで国のほうからも言われていますし、歩み寄りもしていただいておりますので、私もしっかりと町民の皆さんが足を運べるように、町民パスポートの事業が活性化するように、いろいろとご提言をさせていただければなと思っております。

手話条例の関係でございます。おとし、令和5年に手話言語条例を白老町では制定をさせていただきました。これまで様々な具現化ということで実効性を担保しながら進めさせていただいております。議員から今回観光施設のというようなお話がございましたので、この辺は先ほど動画の作成というような具体的な例も挙げさせていただきましたけれども、町としてまず何ができるかということもしっかりと検討させていただいて、この多文化共生の社会、多文化共生の実現に向けてしっかりと取組を進めてまいりたいと思っておりますし、ウポポイに関しては早速、ウポポイのほうにもまた、これもまた国のほうに働きかけをしました。これも一つの誘客、誘客というか集客の一つになる、議員のほうからご提言がありましたように、障がいをお持ちの方もそういった施策を展開することによってウポポイに足を運んでいただけるのではないかなというような提案もさせていただきましたので、しっかりと多文化共生のまちづくりについて取組を進めてまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君） それでは、ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時17分

---

再開 午後 3時29分

○議長（小西秀延君） それでは、休憩を閉じて一般質問を続行いたします。

4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川かおりです。2、子育て世代の包括的支援について。

第3期白老町子ども・子育て支援事業計画の中で、『子育て世代包括支援センターの機能と児童福祉の機能を併せ持つ「こども家庭センター」の設置に向けた検討を進めます。』とあるが進捗状況を伺います。

- (1)、子育て世代包括支援センターの機能と課題について。
- (2)、町における児童福祉機能の現状と課題について。
- (3)、本町における児童虐待の相談・通報件数について。
- (4)、こども家庭センターの役割と必要性について。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「子育て世代の包括的支援」についてのご質問であります。

1 項目めの「子育て世代包括支援センターの機能と課題」についてであります。

子育て世代包括支援センターは、保健師等の専門スタッフが妊娠・出産・子育てに関する様々な相談に寄り添い、共に考え、必要に応じて関係機関につなぐことを通して、不安の解消、産後うつや育児ノイローゼ等の予防など、切れ目のない支援を提供する機能があります。

本町においては、令和元年7月から母子保健機能と児童福祉機能を一体的に実施しておりますが、中には、就学前には支援につながらず、就学後に子供や家庭の問題が認識されることがあり、関係機関との連携強化が課題であると捉えております。

2 項目めの「本町における児童福祉機能の現状と課題」と、3 項目めの「本町における児童虐待の相談・通報件数」については、関連がありますので一括してお答えいたします。

本町においては、子育て世代包括支援センターや発達支援センター等において、育児相談、発達相談、虐待相談など行っていますが、近年は相談内容が複雑化し、児童福祉機能の窓口だけでは解決することが困難な状況となっていることが課題であると捉えております。

その中で、児童虐待の相談・通報件数につきましては、令和4年度7件、5年度10件、6年度11件となっており、本町の年少人口は減少傾向にありますが、相談・通報件数は横ばいの状況であります。

4 項目めの「こども家庭センターの役割と必要性」についてであります。

こども家庭センターは、子育て世代包括支援センターとこども家庭総合支援拠点の機能を一体化した相談機関であり、福祉的な支援の有無にかかわらず、妊産婦及び子育て家庭に対する支援、ニーズ把握や新たな担い手の発掘等、必要な支援の提供体制を整備する役割があります。

また、自らの支援ニーズに気づいていない家庭や、支援を求めることに困難を抱える家庭などを早期に把握するとともに、就学前後で切れ目が生じないように、乳幼児期から包括的・継続的な支援を行う必要があると考えております。

○議長（小西秀延君） 4 番、長谷川かおり議員。

〔4 番 長谷川かおり君登壇〕

○4 番（長谷川かおり君） 4 番、長谷川です。再質問に入ります。

今の若いお母さん方の年代は、少子化の進んだ中で育っており、赤ちゃんに触れる機会もめったになく、出産、育児の予備知識が少ないまま母親になっていて、産後の心身の負担の大きさと一気に押し寄せてくる家事、育児の負担に押し潰されそうになっていきます。その中において必要な支援につながっていくことがとても重要です。子育て世代包括支援センターでは、妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援をしております。助産師が中心になって行っている産後ケア事業の内容と実績について、昨年から開始された宿泊型では補正予算を組んでまで利用者が増えておりました。今年度の利用状況を分かる範囲でよろしいので、お伺いします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 産後ケア事業の実績でございます。令和7年度、8月末でございますが、宿泊が3件、日帰りが5件、訪問が30件、合計38件となっております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。宿泊型や日帰りのほうも利用人数が減っているようにすけれども、こちらの要因はどのように捉えているのかお聞かせください。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 要因の分析についてでございます。やはり出生数の減少に伴う利用者の減といったところがまず1つ挙げられるのかなと我々は捉えております。それと、事業者の利用料の値上げに伴いまして、産婦の自己負担金額が令和7年度から増加しております。そういったことから利用回数の減少につながっているのかなという捉えはしております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 出生数の減少というところもありましたけれども、現在で何人の赤ちゃんが生まれているのか、あとは母子健康手帳の交付状況とかももし分かりましたら現状をお伝えください。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 保健福祉部で押さえている出生数をお答えさせていただきます。

令和7年度、8月末で13件ということで、昨年度は39件、1年間で39件ですが、今年度は今のところ13件ということで推移をしております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 子供の数が今年度はもしかして20人ちょっといくかどうかみたいな、そんなような捉えでいいのかなとは思いますが。そして課題としては、利用料の値上げが一因となっているよということですので、国や北海道の補助制度をうまく活用して、白老町として白老町のお母さんが一人でも多く使えるように制度を改善していけるような、そのような検討は行っているのかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） ここの自己負担金額の増加といったところにつきましては、我々も当然何とかしなければならぬと理解をしております。当然次年度に向けて近隣市町村、特に胆振管内でもそういった事例があるというのも押さえておりますので、そういったやり方や動向を参考にしながら、ここの部分の軽減を図るような努力をしていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） この点は以前に議会でも取り上げられておりますので、しっかりと前に進めていただけたらと思います。

次に、ファミリーサポートセンターの産後サポート事業について、産後ケア事業とどのよう

に違うのかというところと事業内容、令和6年度、令和7年度、分かる範囲でいいので、実績と、また課題がありましたらお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） ファミリーサポートセンター事業における産後サポート事業についてでございます。内容につきましては、生後12か月までの乳児がいる場合、ファミリーサポートセンターの利用料が半額となっております。これは平成30年度に開始をしておりますが、主に子供の託児、それから送迎となっております。実績についてでございますけれども、令和5年度が89件で4万5,800円、令和6年度が337件で17万8,650円となっております。先ほど産後ケア事業の部分でもご答弁したとおり、産後ケア事業が新たに宿泊型を開始したといったことも付随して、このファミリーサポートセンターの産後サポート事業も大きく増加をしたところでございます。特に令和5年2月から開始しました伴走型の相談支援で面談を3回行っておりますが、そういったところにおいてこういったファミリーサポートセンターの事業がありますよだとか、本町にある子育て支援の事業を周知しています。そういったことも増加に寄与したのではないのかなと捉えております。

それと、課題についてでございます。ここにつきましては、これは昨今ということではなくて長年の課題かなと捉えておりますけれども、提供会員、ファミリーサポートセンター自体の提供会員の部分、30分300円で実施しておりますけれども、ここら辺りの部分が変わっていない、そういったことからスタッフの確保とか継続がなかなか厳しいといった声はスタッフのほうから聞いているところでございます。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。このスタッフの提供会員の収益、報酬というのですか、そういうところは本当に長年の課題というところですが、こういうところを改善するためにまちとしては何か支援できる、そういう考え方とかというのはあるのでしょうか。大切な事業なのですが、これを継続するために確かにいろいろとまちとして助成金とかも出していますけれども、この点を改善できるような何か策というものはこれから考えていっていただけるのか、その点を理事者のほうにお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） ただいまの議員のご指摘の部分についてでございます。これは私が子育て支援課のときからずっと協議をさせていただいております。当然そこには総務財政部も、それから理事者も含めてということになりますが、今年度はまずはファミリーサポートセンターに常駐している提供会員ではないスタッフのほうの人件費を何とかできないかということで、まずは今年度はそちらのほうをやらせていただきました。ただ、ここにつきましては当然我々としても以前から懸案事項ということで取り扱っておりますので、この30分300円というのはどう変えていくのか、こういったところも我々としては水面下では協議しておりますが、何とかこういったものを反映できるようにやっていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克己君） ただいまの件でございますが、ファミリーサポートセンターのいろいろな問題につきましては担当のほうからも聞いておりまして、やはりスタッフが今後もしっかりと継続して事業を実施してもらう必要が町としてはあると、この辺については認識してございますので、この件につきましては今すぐということにはなりませんけれども、新年度に向けて前向きに検討してまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 前向きに検討しているという答弁をいただきました。まず、この2つの事業というのは産後間もないお母さん方にとって大変大きな助けになっていることは確かでございます。母親が笑顔になると子供も健やかに育ちます。母親を支援することは、まさに子は宝、親も宝につながりまして、子育て世帯への包括的な支援であると私は捉えております。

次の質問に移ります。児童福祉機能の現状と児童虐待の相談件数は町長の答弁で理解いたしました。こども家庭庁が公表した令和5年度の虐待相談対応件数の総数は22万5,509件と令和4年度より1万人増えております。過去最多を更新している状況です。児童虐待と疑われるケースや死に至る悲惨な事件が後を絶たず、連日の報道などで社会全体が敏感になり、通報が増えていることも増員の一因と言われております。本町の児童虐待の対応について、通報件数は町長の答弁で理解しましたが、継続した対応も含めた虐待件数、そして虐待の種別、通報窓口の現状はどのようになっているのかお伺いいたします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 虐待の関係でございます。まず、初めのご質問でございますが、継続した件数、年度をまたいで対応している件数でございますが、令和4年度が21件、令和5年度が19件、令和6年度が19件となっております。それと、虐待の種別でございます。過去3か年の状況から申し上げますと、身体的虐待、暴力が一番多く、続いてネグレクトと呼ばれる愛情遮断、配慮欠陥など、それと心理的虐待となっております。それと、通告受理後の部分でございますが、これはいろいろなパターンがございます。例えば学校や保育園など、こういったところは町に直接連絡が入ります。また、警察とか病院、病院というのは町立とかではなくて全体的な病院という意味なのですけれども、児童相談所への通告が多い傾向になっております。ただ、どちらにしましてもその後お互い情報共有を行っているところでございます。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 児童虐待の対応につきましてはいろいろな関係機関がいろんな重なり、状況が重なって複雑化しているところを今の答弁の中で確認することができました。

このように、今回は母子保健機能と児童福祉機能の双方から例を挙げて質問しましたが、子育て全般に関わる大きな枠組みとして一体的に行っていくのがこども家庭センターという捉えで私は理解いたしました。私の知る限り、大きな自治体ではなかなか横の連携というのは難し

いのですが、本町は既に連携をしていろいろと取り組んでおります。この進め方がこども家庭センター、その体制につながっていくのかなとは思いますが、こども家庭センターの体制はどのようなものなのか具体的にお聞きいたします。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） こども家庭センターの体制についてでございます。令和4年度、児童福祉法の改正で努力義務として市町村に義務づけられたものでございます。先ほど議員のご指摘のとおり、本町では小さいまちということもありまして、またいきいき4・6内に同じ部署が入っているということもありまして、児童福祉と、それから母子保健の連携はある程度できているものと捉えてはおりますが、こども家庭センターにおきましては設置する意義としまして、さらに進んだ機能として相談支援体制の強化を目指して組織体制を現在考えているところでございます。それと、組織としましては1か所当たりセンター長を1名配置しなさいといったところ、それとここが大きく変わるのですけれども、児童福祉機能と母子保健機能の知識を十分有し、しっかりと判断することのできる統括支援員を専任で1名配置しなさいとなっているところでございます。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川です。統括支援員という職員を配置するということですが、こちらは専門性が高く多方面に頼りになる存在であって、いろいろと専門的に業務を行う方ということで理解してよろしいのでしょうか。こども家庭センターについて、今までの子育て世代包括支援センターとの違いはどのようにあるのか、その点をお聞かせください。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 今までとの違いについてでございます。ただいまご答弁申し上げたとおり、まずは統括支援員を専任で1人置くということが違い、大きな違いの1つです。それと、もう一つは、これは本町独自の考え方で進めていきたいと考えているのですが、幼児期から就学後までの統括的、継続的な支援を行うため、教育委員会、特に学校教育部門でございすけれども、こちらにおいてもこども家庭センターに位置づけをしまして、一緒に、一体的に、今までもやっけてはいるのですが、より深く一体的な体制にしたいと考えております。この考え方につきましては、現在やっている健診などにおいて、やはり発達に心配がある子供が一定数いるのですけれども、親がそこまで心配をしていないとか、まだ様子を見たいということで療育につながっていない部分が現在あります。そういったところも含めると、あと先ほど答弁した虐待の対応、こういったところを考えていくと、やはり教育部門との連携は不可欠だということで、我々はそこの部分、この2つの大きな違いとしてやっていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 今年度から5歳児健診も導入されたということですので、しっか

りそういう機能も活用しながら子供たちのために、いろいろと支援の必要な子供をしっかりと把握して、いろんな機関と共に関わっていただけたらと思います。

では、このこども家庭センター、対象とする子供の年齢と対象から外れる年齢の支援策についてはどのようなになるのか、また開設の時期について伺います。

○議長（小西秀延君） 齊藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（齊藤大輔君） 対象年齢でございますけれども、こちらについては18歳までを対象ということで押さえております。

それから、対象から外れる部分の支援についてでございますが、こちらについては、こちらでも現在進めている状況なのですけれども、属性を問わない支援としまして重層的支援体制整備ということで、こちらの取組の中で対応してまいりたいと考えております。開設時期につきましては、こども家庭センター、重層の支援体制ともに令和8年度中の開設を現在見込んでいるところでございます。

○議長（小西秀延君） 4番、長谷川かおり議員。

〔4番 長谷川かおり君登壇〕

○4番（長谷川かおり君） 4番、長谷川かおりです。こども家庭センターと重層型支援体制がしっかりと令和8年度に開設するというので、やはり支援に取りこぼしがないような、そういう体制整備が、同時に始動するという、来年度は本当に重要な年だなんて認識しております。この2つの大きな事業が令和8年に実施に向けて今準備を進めているということですが、これから出生数が減っていく中でも一人一人に寄り添い、親身になっていくことが重要であり、産後ケアやファミリーサポートセンター、またこども家庭センター、重層の支援体制の整備など、本町の子育て世帯への根幹を支える仕組みづくりがしっかりと前に進んでいるのだなというのをすごく感じ取ることができます。本町の実情に合った取組を進めることはとても重要でありますし、先ほどの答弁でもありました統括支援員の配置や子供たちが快適な環境で、今はすごく暑いですが、来年も暑くなります。そういう快適な環境で過ごし、療育的支援をしっかりと受けることができますように必要な支援のためにしっかりと予算を確保し、まちとして率先した取組を進めてもらいたいと考えますが、最後に町長の考えを伺いまして、私の一般質問を終わります。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 子育て世代の支援についてご質問いただきました。先日町内の子育て支援団体の皆さんと懇談をする機会をいただきました。様々にその中で現状の子育て世帯のお父さん、お母さんの苦勞されているお話であつたりですとか、あとは団体の皆さんの苦勞されているお話ですとか、様々にご意見をいただきました。やはりそういった団体の方々と懇談することによって、行政として何をすべきなのか、何ができるのかということをも再認識することができましたので、今後においてもしっかりとこの子育て支援団体の皆さんとは懇談する機会を設けさせていただきたいなと思っております。

そういった中で、子育て世代の包括支援ということは、もう今は昔と違って子育ては家庭ではなく地域全体で見守っていくもの、実施していくものということで、そういった状況の中か



ら白老町においては切れ目のない子育て支援という施策を様々に展開をさせていただいているところでございます。そういった中では行政だけではなくて、今お話をした子育て支援団体の皆様も一緒に連携をして、そして新しくできる子育て世代包括支援センターも含めてしっかりと子供の成長を地域全体で見守っていくということが重要なことだと思っておりますし、白老町は今子はまちの宝というようなことで施策を展開しておりますので、引き続き子育て支援については力を注いでまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 以上で4番、長谷川かおり議員の一般質問を終了いたします。